

## 学校評価に関して

四天王寺高等学校  
四天王寺中学校  
校長 稲葉 良一

学校評価の目的の第一は、学校が教育活動および学校運営について、組織的・継続的な改善を図ることです。次に学校評価の実施・結果の公表によって、学校を地域に開かれたものとし、魅力ある学校づくりのために家庭や地域社会との連携を深めていくことです。そして設置者（私立学校においては理事会）が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備などの改善を講じ、教育水準の保証・向上を図ることとされています。

学校評価の実施手法としては次の3段階となります。

- (1) 自己評価                                      教職員が行なう評価
  
- (2) 学校関係者評価                              保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行なう評価
  
- (3) 第三者評価                                      学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価

本校は平成20年4月に学校評価検討委員会を設置し、同年12月より「学校教育法」及び「学校教育法施行細則」に基づき、学校評価の「自己評価」を開始いたしております。平成22年1月末より「生徒による学校評価」を行ない、さらに平成22年11月より「生徒による授業評価」を始めることになりました。

本年度（平成29年度）も、例年通り保護者の代表である後援会実行委員の皆様に「自己評価」、学校評価検討委員会の「自己評価分析」「生徒による学校評価」を検討していただき、「学校関係者評価」をいただきました。

本校は、「生徒による学校評価」「生徒による授業評価」、そして「学校関係者評価」を真摯に受け止め、聖徳太子様の「和のご精神」に基づき、信念ある人間の育成に力を注ぐとともに、保護者・地域社会・学校の相互連携のもとで、これからの社会変化に対応できる生徒を育成する教育を追求してまいります。

## 学校教育と学校評価

四天王寺高等学校  
四天王寺中学校  
学校評価検討委員会  
委員長 川淵 武比古

学校評価は文部科学省が教育全体を見つめ直そうという意図で実施にふみきました。その骨子は生徒・保護者・教師が三位一体となり、生徒がよりよい教育を享受できるようにという点にあります。そのためには教育活動の成果を検証して組織的・継続的な改善を図り、そして学校設置者および保護者も含めた学校づくりを進めていくことが重要だと考えます。本校の「学校評価」の取り組み・実施も、平成20年4月以来10年が過ぎ、平成30年4月で11年目を迎えようとしています。

学校評価とは具体的には

目標設定 (Plan) → 取り組み (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Action)

というPDCAサイクルを、より良い教育活動に向けて毎年展開し、改善を図っていくということです。すなわち「評価」は評価が目的ではなく、将来にわたって学校が充実した活動ができるための、また学校が元気になるための手段なのです。

本学園では教育方針（目標）に則り、上記のサイクルを実施し学校評価を行うものですが、前年度28年度にアンケート項目の大幅改訂を実施しましたので、今年度29年度は、28年度を踏まえて、その上に反省事項を加えた小規模なアンケート項目の追加・変更にとどめて、学校評価を実施しました。

具体的には、教師自己評価では項目32・33の追加になりますが、これは今年度作成された四天王寺高等学校・中学校中・長期計画の平成29年度事業計画との整合性を保つために追加したものです。事業計画では教員に各種研修を求めています、それに対応するものです。

生徒学校評価では以下に列挙する点になります。

- 一、より生徒の実感を引き出しやすくするため項目5,6の表現の変更。
  - 二、昨年度の反省に基づいて項目23の「先生」と「カウンセラー」の別項目化。
  - 三、昨年、同報告会で取り上げられた項目29の記述化。
  - 四、昨年度の項目31の周知徹底のためAEDの場所を掲示しましたが、それがしっかり認識されているかどうかを確かめる項目の追加。
- 以上の追加・変更で本年度はアンケートを実施いたしました。

報告にあたり、大勢の方々のご協力に抛りましてここに平成29年度のご報告が出来ますことを心より御礼申し上げますとともに、本校における教育の改善・充実につながる資料となり、今後も関係皆様のお力添えを頂けますよう、お願い申し上げます。

## 1. 教育目標

四天王寺学園の設置母体である四天王寺は、推古元年（593年）、聖徳太子によって建立された日本仏教最初の大寺である。聖徳太子は四天王寺で仏教精神を礎とし、世の中の平和や繁栄の実現に貢献すべき人間育成を大志とした「四箇院の制」（悲田院・療病院・施薬院・敬田院）を設けられた。その敬田院が、慈悲救済を使命として生きる、立派な人格者を育成するという教育事業にあたる。

建学の精神は、「敬田院設立の精神」に示される「帰依渴仰 断悪修善 速證無上大菩提處」であり、菩薩のような人間像を範とする人間の育成によって、平和国家の実現と世の人々の幸福づくりを希求するものである。調和を目指す円満なる仏の境地である、「和の精神」を率先垂範できる人間を、世に送り出す教育こそが、尊い社会的使命・役割であり、教育目標である。

聖徳太子の和のご精神を礎とする信念ある女性の育成をはかる。

- (1) 円満で深い人間性をそなえた女性を育てる。
- (2) 将来希望する世界に力強く雄飛し得る学力を養成する。
- (3) 個性を充分伸長できる教育を行う。

## 2. 中期的目標 ～P l a n～

- (1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る。
  - (ア) 学力の向上を通して冷静で柔軟な思考力を身につけさせる。
  - (イ) 毎日の活動や部活動・学校行事などを通じて協調性を育成する。
  - (ウ) 上記を通して四恩に報いる心、感謝の心、他を思いやる心を涵養する。
- (2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る学力を養成する。
  - (ア) 教員の指導力、授業力のさらなる向上をめざし、保護者・生徒の信頼に応える。
  - (イ) 規律ある学校生活のもと、自主的・能動的に取り組める生徒を育成する。
  - (ウ) 学力の定着を図る小テスト・確認テストなど適宜実施する。
- (3) 生徒個々人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う。
  - (ア) 進路指導部と一体になった教員の研究会・講習会参加を通して、十分な情報・知識の習得に努める。
  - (イ) 的確に生徒・保護者に情報を発信し、生徒・保護者の信頼に応える。

- (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る。
- (ア) 欠席・遅刻に対する対応をきめ細かく行う。
  - (イ) 登下校時の合掌・礼拝を励行させるよう心の教育を行う。
  - (ウ) 他に誇れるような、通学時のさらなるマナーの向上を図る。
  - (エ) 常に時間を守ることの大切さを意識させ、基本的な生活習慣の継続・維持を図る。
- (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う。
- (ア) あらゆる機会を通して人権教育・学習を実践し、人権尊重の精神を涵養する。
  - (イ) いじめを許さず、保護者・教員・生徒全員でこの問題に取り組む学校作りを目指す。
- (6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる。
- (ア) 防災体制を十分理解し、生徒の安全管理の徹底を図る。
  - (イ) 防災意識を高める教育を行う。
  - (ウ) 救命講習の機会を定期的に設ける。
- (7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する。
- (ア) 教科指導の向上をめざし、しかるべき研修に参加する。
  - (イ) 生徒指導上の知識やスキルを向上させるべく、研修などに参加する。

### 3. 全項目における目標指数

目標指数（評価点） 4.7以上

※評価点の算出方法：評価点＝5×A 当てはまる（％）＋4×B やや当てはまる（％）  
＋2×C あまり当てはまらない（％）＋1×D 当てはまらない（％）

平成29年度 本年度の取り組みに対する教師自己評価集計結果と分析

回答教諭人数 : 151名

今年度の 重点取組目標 ～Plan～	質問 NO	具体的な取組・内容 評価内容 ～Do～	評価点		A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない			
			28年度	29年度	A	B	C	D
(1) 長和学 をの習 図精や る神様 を々々 学なび 、体 験、人 を間 通的し 成て	1	毎日の学校生活が生徒の心の成長に繋がるよういつも心がけ、はたらきかけている。	4.7	4.6	70.9%	25.8%	2.6%	0.7%
	2	授業では生徒が深い関心や興味を持ち成長できるよういつも取り組んでいる。	4.6	4.6	70.3%	28.4%	1.4%	0.0%
	3	塔影祭（体育祭・文化祭）や部活動において、生徒の力を十分発揮させることが出来ている。	3.6	3.5	25.2%	41.1%	23.8%	9.9%
	4	和光館における講話を生徒に積極的に聴かせるよう指導できている。	3.5	3.5	34.5%	31.8%	16.9%	16.9%
	5	生徒会活動や部活動などいろいろな有意義な活動への参加を呼びかけている。	3.6	3.7	30.5%	41.7%	19.9%	7.9%
(2) 学学 力びの 養喜 成びを する理 解させ、 将来に 力強く 雄飛し 得る	6	授業に際しては十分な教材研究をいつもしている。	4.7	4.6	70.9%	27.0%	2.0%	0.0%
	7	応用力思考力がつくよう授業にいつも工夫を凝らしている。	4.5	4.5	56.8%	40.5%	2.7%	0.0%
	8	適宜小テストなど使い学習事項の定着を図っている。	4.0	3.7	42.6%	31.1%	21.6%	4.7%
	9	授業は規律正しくできている。	4.7	4.6	64.9%	32.4%	2.7%	0.0%
	10	授業の進度は適切である。	4.6	4.5	58.1%	38.5%	3.4%	0.0%
	11	生徒一人一人の学習状況をしっかり把握できている。	4.2	3.9	28.5%	58.3%	11.3%	2.0%
	12	副教材など適切に活用できている。	4.5	4.3	56.8%	33.8%	4.7%	4.7%
	13	遅進者には適切な支援ができています。	3.6	4.0	35.8%	44.6%	18.2%	1.4%
	14	生徒に能動的な学習に向けたアドバイスができています。	4.4	4.3	45.7%	44.4%	9.9%	0.0%
(3) 行発長個 う信で生 やきを徒 教るを個 育情充々 分人 を報伸が	15	生徒の希望、疑問、不安などに対してよく耳を傾け、アドバイスを適切に行っている。	4.5	4.5	55.6%	39.7%	4.6%	0.0%
	16	成績資料や模試結果などを生徒に対して適切に効果的に利用できている。	3.6	3.6	22.5%	49.0%	19.2%	9.3%
	17	キャリア講座を始め、あらゆる情報を生徒保護者が利用できるよう徹底している。	3.3	3.0	23.8%	30.5%	21.9%	23.8%

## 教師自己評価集計結果に対する分析 ～C h e c k～

### (1) 学習や様々な体験を通して和の精神を学び、人間的成長を図る

1, 2に関しては前年同様、高い自己評価となった。教員の意識としては変わらず己の責務に励んでいるということになるだろうか。この二つの項目は前年も指摘したが、生徒学校評価の5, 6と表裏の関係であらねばならないところで、生徒学校評価も同程度の評価があるのが望ましいが、残念ながら今年度も昨年並みの評価で、乖離、ないしは意識のズレがあると言わねばならない。今一度、教員は真摯に毎日を顧みて、惰性で過ぎることなく、たゆまぬ努力・工夫を重ねる必要がある。

3, 4, 5も昨年同様の評価点となっている。いずれも教員のそれぞれの行事や活動への関わり方が問われていて、さらなる積極性が求められる。

### (2) 学びの喜びを理解させ、将来に力強く雄飛し得る

6, 7は全項目の1, 2以上に生徒学校評価の5, 6と表裏をなすところで、繰り返さないが、教員の意識改革が求められていると言わねばならない。

8は昨年から0.3ポイント下がり3.7で、工夫が足りないという点に通じるかもしれない。前述と同じく教員の意識の変革が必要だ。

9から12、および14は前年並み。目標の4.7には届かないが、それなりに評価できる項目ではないだろうか。

13は3.7から0.3ポイント上がり4.0。昨年度「次年度目標へ反映すべき項目」の(二)で遅進者対策の必要性をあげたが、もちろんまだまだ十分ではない。が、成果も上がりつつあるといえようか。

### (3) 生徒個々人が個性を充分伸長できる情報発信や教育を行う

3項目15, 16, 17とも前年と変わらない。進路主体の17が個々の先生方の自己評価として高くないのは致し方ないが、16は一昨年から下がったままで問題がある。効果的な利用法が今ひとつ確立されていないことが原因と思われ、個々の教員と言うよりは適切なシステムの確立が必要ではないか。

今年度の 重点取組目標	質問 NO	具体的な取組・内容 評価内容	評価点		A:当てはまる B:やや当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない			
			28年度	29年度	A	B	C	D
(4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る	18	正しい制服・頭髪などについてしっかり指導している。	4.1	4.0	37.1%	44.4%	13.9%	4.6%
	19	欠席・遅刻に対してきめ細かく対応している。	4.4	4.3	49.0%	39.1%	9.9%	2.0%
	20	登下校時の合掌・礼拝を励行させる指導を行っている。	3.8	3.8	40.4%	34.4%	16.6%	8.6%
	21	通学時の路上や電車内のマナーについて十分指導している。	3.8	3.8	32.5%	42.4%	17.9%	7.3%
	22	校内美化の徹底を図る指導をしている。	4.2	3.9	37.7%	43.7%	13.9%	4.6%
	23	常に時間を守る指導を行っている。	4.6	4.6	65.6%	29.8%	2.6%	2.0%
	24	生徒指導は常に教師全員が情報を共有する意識を持ち、協働している。	4.2	3.9	39.1%	38.4%	19.2%	3.3%
	25	生徒個人々の状況の把握に努め、必要な場合の指導後は生徒のサポートを十分している。	4.2	4.1	38.4%	50.3%	10.6%	0.7%
	26	必要に応じて保護者との連携を十分にとっている。	3.6	3.6	35.8%	31.8%	14.6%	17.9%
(5) うめし育様 るて・々 教意学な 育識習を をを権 行を高 通教	27	学級活動・教科活動で人権尊重の意識を高めるようしている。	4.3	4.1	46.4%	39.1%	10.6%	4.0%
	28	あらゆるいじめ・ハラスメントを許さない意識を徹底することができている。	4.4	4.4	63.6%	28.5%	6.6%	1.3%
	29	問題が発生した場合には教員全員で共有し、保護者との連携を強く意識し取り組んでいる。	4.1	3.8	42.4%	32.5%	20.5%	4.6%
(6) さ識安ルマ危 せを全に二機 る徹の則ユ管 底意リア理	30	生徒への安全管理の広報(AEDの場所・気象警報時の対処など)と徹底を図っている。	3.9	3.8	35.1%	38.4%	20.5%	6.0%
	31	防災意識を高める教育(防災訓練・火災訓練など)を行っている。	4.1	4.0	40.4%	40.4%	12.6%	6.6%
(7) 参研積目力己教 加修極指向の員 す等的し上教は るににてを育自	32	教科指導の向上を目指し、しかるべき研修などに参加した。		3.7	37.7%	33.8%	15.9%	12.6%
	33	生徒指導上の知識やスキルを向上させるべく、研修などに参加した。		3.1	21.2%	29.8%	31.1%	17.9%

#### (4) 規律正しい生活習慣の維持・継続を図る

すべての項目にわたってほぼ前年並みで、評価もどれも低いわけではないが、4.0 を割る 20, 21, 26 は反省が必要だ。

何より 26 は、昨年度「次年度目標へ反映すべき項目」の（三）で保護者との意思疎通をあげ、その結果、保護者面談も全学あげて増やしたにもかかわらず指標が上がっていない。もちろん項目の求めるところが面談の回数ではないので、今年度の取組みが項目に直接反映したわけではないと考えて良いのだが、すると保護者満足度は？ということになる。この辺りは後援会主体の「ご意見」に俟ちたい。

#### (5) 様々な人権教育・学習を通して意識を高める教育を行う

項目 27, 28 は前年並みだが、29 が 3.8 に下がっているのは、該当事案の発生が少なかったということになるだろうか。

#### (6) 危機管理マニュアルに則り、安全管理の意識を徹底させる

2 項目 30, 31 も前年並み。ただし、30 はもう少し徹底したいところ。

#### (7) 教員は自己の教育力向上を目指して積極的に研修等に参加する

2 ページ「学校教育と学校評価」で記したように今年度作成された四天王寺高等学校・中学校中・長期計画の平成 29 年度事業計画との整合性を保つため、この 2 項目を追加する。事業計画の求める教員の各種研修の達成度だが、指標は改善の余地がまだまだあることを示している。

### (本年度の分析結果のまとめと 次年度目標へ反映すべき項目) ~Action~

(一) 教師は、昨年度のまとめ同様「独りよがり」や「自己満足」に陥らず、たゆむことのなく真摯に日頃の教育活動に取り組む姿勢（意識改革）が求められている。

(二) さらに踏み込んだ遅進者対策が求められる。

(三) 保護者の立場に立った意思疎通のさらなる充実に心がける必要がある。

(四) 教科指導・生徒指導向上の為、研修会への参加等、教員自らがスキルアップに努める意識を持つ必要がある。

※ (一) ~ (三) は昨年と同様の反省項目となった。踏み込んだ姿勢がまだまだ求められているということになる。次年度へ反映させていきたい。

## 平成29年度 生徒学校評価アンケート集計結果と分析

実施学年：高校二年 回答人数440名 中学二年 回答人数215名

指標の計算式：Aの人数割合×5+Bの人数割合×4+Cの人数割合×2+Dの人数割合×1

A:はい B:どちらかといえばはい C:どちらかといえばいいえ D:いいえ

※指標の数値が高いほどその項目について望ましい評価であるが、一部項目（17, 20, 22）

については数値が低いほどその項目について望ましい評価、またどちらとも言えない項目（23, 24, 26, 28）があることにご留意ください。

NO	質 問		指標		A	B	C	D
			28年度	29年度				
1	学校では何事にも前向きに取り組んでいますか。	高校	4.0	<b>4.2</b>	40.5%	50.2%	7.7%	1.6%
		中学	4.1	<b>4.0</b>	34.6%	49.8%	14.3%	1.4%
2	学級活動や学校行事、また部活動に積極的に取り組んでいますか。	高校	4.3	<b>4.3</b>	58.6%	33.7%	5.7%	2.0%
		中学	4.3	<b>4.2</b>	46.1%	42.4%	9.2%	2.3%
3	予習・復習等は十分していますか。	高校	3.3	<b>3.3</b>	13.1%	48.4%	29.9%	8.6%
		中学	3.5	<b>3.0</b>	6.5%	50.2%	30.0%	13.4%
4	課題や宿題はきっちり提出していますか。	高校	4.1	<b>4.1</b>	54.1%	30.5%	12.4%	2.9%
		中学	4.2	<b>4.3</b>	54.8%	36.4%	6.0%	2.8%
5	授業で教材や教え方にさまざまな工夫をしている先生が多いと感じますか。	高校		<b>3.2</b>	13.1%	42.1%	29.6%	15.2%
		中学		<b>3.4</b>	24.4%	36.4%	29.5%	9.7%
6	本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解が出来るように工夫されていると思いますか。	高校		<b>2.9</b>	10.2%	43.7%	25.8%	20.4%
		中学		<b>3.6</b>	25.8%	42.4%	23.0%	8.8%
7	和光館における講話をしっかり聴いていますか。	高校	2.7	<b>3.2</b>	19.5%	38.2%	26.2%	16.1%
		中学	3.5	<b>2.8</b>	13.8%	30.0%	34.1%	22.1%
8	自分の進路に関してしっかり考えていますか。	高校	4.2	<b>4.2</b>	53.2%	33.0%	10.4%	3.4%
		中学	3.5	<b>3.3</b>	23.0%	32.7%	28.6%	15.7%
9	進路について先生とよく相談していますか。	高校	2.2	<b>2.2</b>	5.0%	21.3%	30.5%	43.2%
		中学	1.7	<b>1.4</b>	1.8%	6.0%	21.2%	71.0%
10	進路について保護者の方とよく相談していますか。	高校	4.1	<b>4.1</b>	49.1%	32.6%	12.2%	6.1%
		中学	3.5	<b>3.0</b>	21.2%	27.2%	30.4%	21.2%
11	正しい服装や頭髪を心がけていますか。	高校	4.3	<b>4.7</b>	71.3%	24.2%	2.7%	1.8%
		中学	4.7	<b>4.5</b>	65.9%	27.6%	4.6%	1.8%
12	安易な遅刻や欠席をしないよう心がけていますか。	高校	4.6	<b>4.7</b>	83.7%	9.5%	4.5%	2.3%
		中学	4.7	<b>4.7</b>	80.6%	15.7%	2.8%	0.9%
13	登下校時の慈母観音様への合掌礼拝を励行していますか。	高校	4.6	<b>4.6</b>	73.8%	23.1%	1.8%	1.4%
		中学	4.8	<b>4.5</b>	76.0%	15.7%	5.1%	3.2%
14	登下校時のマナーに気をつけていますか。	高校	4.6	<b>4.5</b>	65.8%	30.5%	1.8%	1.8%
		中学	4.5	<b>4.2</b>	46.1%	44.2%	6.0%	3.7%
15	教室の整理整頓・美化に努めていますか。	高校	3.9	<b>3.9</b>	32.8%	47.5%	14.7%	5.0%
		中学	4.0	<b>3.5</b>	23.5%	46.1%	20.7%	9.7%
16	授業の始まりなど、時間を守るよう心がけていますか。	高校	4.6	<b>4.5</b>	62.2%	34.8%	2.3%	0.7%
		中学	4.5	<b>4.2</b>	48.4%	42.4%	6.5%	2.8%
17	クラスやクラブ活動でいじめを感じたことがありますか。	高校	1.3	<b>1.4</b>	3.2%	3.4%	8.1%	85.3%
		中学	1.4	<b>1.4</b>	4.1%	5.5%	12.0%	78.3%
18	(17)でいじめを感じたことがあると答えた人だけ答えてください。 それは解消されましたか。	高校	3.3	<b>4.0</b>	75.9%	0.0%	0.0%	24.1%
		中学	3.2	<b>3.9</b>	71.4%	0.0%	0.0%	28.6%

## 生徒学校評価アンケート集計結果に対する分析

1, 2 に関して、昨年度同様、生徒達の意識の高さが十分うかがえる高い指標になっている。一昨年度の項目の「学校は楽しいですか」に代えて項目 1 にしたのだが、1, 2 の高い指標から学校が楽しいこともうかがえる結果となった。

3, 4 も昨年度と変わらないが、課題や宿題を真面目にこなす生徒像が見える。しかし自発的な予習復習となると、全員が全員、十分にこなせているとは言えない実体もうかがえる。大学入試改革を見据えた指導が求められるところであろう。

5, 6 は教師自己評価の項目でも記したが、残念ながら低評価になっている。教師の側に生徒の授業受容がどれほどのものかを的確にはかる目が必要で、そういう感度を教師が持つことが求められているといえよう。

7 は相変わらずそう高くない。やはり事前学習をもう少し取り入れる必要があるが、今年度はあまり実施されなかったと言えそうだ。来年度は反省に立った取組が必要だ。

8, 9, 10 は進路関係になるが、もちろん高校生の方が意識は高い。昨年度と同様である。9 の指標が少ないのはしっかり考えているからと言えそうだ。

11, 12, 13, 14, 16 は教師の項目の「規律正しい生活習慣」ということになるが、昨年度同様高い指標で、本校生徒達がいわゆる真面目な生徒達であることがよく分かる。もちろん教師側の実感に合致するものだ。ただし、通行上や乗車時のマナーで苦情が入ることを考えると、回りを見る目や他人に配慮する気持ちの醸成など、さらなる心の教育を教師は心がける必要がある。

15 は美化の項目だが、昨年度と同様とはいえ、C・Dの多さが気になるところ。整理整頓・美化、すなわち掃除だが、心の教育の一環としてとらえる必要がある。

17, 18 はいじめに関する質問項目。数値は昨年度とこれも変わらないが、昨年度は 18 の未解消の回答、および 20 の回答を受けて早速「いじめとハラスメント」のアンケートを実施したが、今回も早急に対応する必要がある。

NO	質 問		指標		A	B	C	D
			28年度	29年度				
19	あらゆる場面で人権尊重の意識を持って行動していますか。	高校	4.2	<b>4.2</b>	45.9%	44.6%	7.2%	2.3%
		中学	4.1	<b>3.8</b>	23.5%	54.8%	18.0%	3.7%
20	先生からハラスメントと感ずることを受けたことがありますか。	高校	1.7	<b>1.7</b>	8.6%	8.1%	19.7%	63.6%
		中学	1.6	<b>1.8</b>	10.1%	8.3%	16.1%	65.4%
21	校則は守っていますか。	高校	4.3	<b>4.5</b>	63.8%	32.4%	1.8%	2.0%
		中学	4.6	<b>4.3</b>	49.8%	41.5%	5.5%	3.2%
22	校則に改善すべき点があると思いますか。	高校	4.0	<b>4.0</b>	57.2%	20.1%	12.2%	10.4%
		中学	3.4	<b>4.0</b>	59.0%	18.0%	8.3%	14.7%
23	悩み事があった場合、先生と相談していますか。	高校		<b>1.8</b>	3.6%	13.1%	23.8%	59.5%
		中学		<b>2.0</b>	3.2%	17.5%	22.6%	56.7%
24	悩み事があった場合、場合によってカウンセラーと相談していますか。	高校		<b>1.2</b>	2.0%	2.7%	3.4%	91.9%
		中学		<b>1.2</b>	1.4%	3.7%	5.1%	89.9%
25	自分自身の健康管理（食事・睡眠など）に注意していますか。	高校	3.9	<b>3.9</b>	36.9%	42.1%	14.0%	7.0%
		中学	3.9	<b>3.5</b>	29.0%	37.3%	21.2%	12.4%
26	校内の食堂や購買をよく利用しますか。	高校	3.0	<b>3.2</b>	27.4%	28.5%	23.5%	20.6%
		中学	3.0	<b>3.2</b>	25.3%	30.0%	31.3%	13.4%
27	図書室をよく利用しますか。	高校	2.0	<b>1.8</b>	6.8%	10.0%	24.0%	59.3%
		中学	1.9	<b>2.0</b>	11.1%	6.9%	28.1%	53.9%
28	自習スペースをよく利用しますか。	高校	2.2	<b>2.4</b>	15.4%	17.0%	19.2%	48.4%
		中学	1.9	<b>2.5</b>	21.7%	12.4%	24.4%	41.5%
29	校内の施設は充実していると思いますか。新しく必要と思われる施設があれば、施設名を下欄に記入してください。	高校	2.7	<b>2.9</b>	17.9%	29.9%	27.1%	25.1%
		中学	2.7	<b>3.3</b>	35.9%	23.0%	21.2%	19.8%
30	防災訓練にまじめに取り組んでいますか。	高校	3.8	<b>3.8</b>	31.2%	45.5%	16.5%	6.8%
		中学	4.0	<b>3.6</b>	24.9%	44.2%	22.6%	8.3%
31	校内にある防災器具(消火器)や救命器具(AED等)の場所を知っていますか。	高校	3.2	<b>3.3</b>	25.1%	32.4%	24.7%	17.9%
		中学	2.3	<b>2.2</b>	12.0%	16.6%	18.4%	53.0%
32	AEDの場所を示す張り紙が貼ってあるのを知っていますか。	高校		<b>3.6</b>	50.2%	17.6%	9.3%	22.9%
		中学		<b>2.7</b>	32.7%	12.4%	10.1%	44.7%

### 項目 29 の「新しく必要と思われる施設」の記述の主なもの

プール 広い運動場 芝生 屋上庭園 ベンチ 野外に食事ができるスペース テニスコート  
 1号館と他の館との連絡橋 広い図書室 図書室の書籍の増加 図書室のインターネット検索  
 アイスクリームの自動販売機 食べ物の自販機 カフェ 購買の充実化 コンビニ 体育館の靴箱  
 の更新 大きめのロッカー トイレのウォシュレット 食堂のメニューの増加

19 も昨年度とほぼ同様だが、この項目も C・D の数値が残るのが問題で、しっかりした人権教育がさらに必要だ。

21 もかなり指標は高く、しかも C・D が非常に少ない。規則をしっかり守る生徒達が見えるが、その反面、21 に見るように改善すべき校則があると考えている。来年度はこの項目 21 で記述を取り入れたいと考えている。

23, 24 は、昨年度「先生やカウンセラー」として一つの項目であったものを、2 項目に分けたところ。昨年の指標は高校も中学も 1.5 であったが、内訳は先生に対する相談の方が多いということだ。悩みの内容にもよろうが、まず教師ということで、常識的な指標の数値というところか。

25 も変化はないが、C・D のやや多いのが気になるところ。

26, 27, 28 は学校施設の使用状況が分かるところ。27 は大いにあってもらいたいと思うがやや少ない。欲しい施設の記述にある「広い図書館が欲しい」や蔵書の少なさの裏返しか。

29 は今年度、「必要と思われる施設」ということで記述してもらった。左に見るとおりである。可能なものもありそうだ。

30, 31 も昨年度と同程度の指標だが、始めに書いたように 32 で A E D の場所を示す張り紙のあるのを知っているか尋ねた。これはまずまずの指標で A E D の場所の認知が進んだものと思われる。ただし、せっかく場所を知っても自分たちで使えなければ意味がない。高校 1 年生では体育の時間に A E D の使い方をはじめとして講習が 1 時間あるが、中高のどの学年にも緊急時対応のマニュアルのようなものが必要かもしれない。

( 本年度の分析結果のまとめと 次年度目標へ反映すべき項目 )

本年度も高校・中学のそれぞれのアンケート指標に大きな差がないことから、高校・中学共通として記す。

(一) 生徒達の自発的な学習への動機付けを、教師は創意工夫を持って行う必要がある。

(二) 教育理念に関わる仏教講話に関して、事前学習などの取組をいっそう努める必要がある。

(三) 図書室機能の充実を図る必要がある。

(四) 救命器具 (A E D) などの使用に関して、緊急の場合の生徒の対処の仕方や使用に関して、すべての生徒の対応が可能なようにマニュアル等の作成など、何らかの対応が必要である。

## 平成29年度 学校関係者評価

四天王寺高等学校・四天王寺中学校後援会  
会 長 藤 井 薫

本年度の学校関係者評価は、以下のとおりです。

学校評価検討委員会は、今回、P D C Aサイクルを教育現場に応用し、より良い教育活動を行うため、アンケートの質問内容を工夫し、より具体的に教師及び生徒の感想を把握するよう努めており、その試みは評価できる。また、同委員会の掲げる教育目標及び中長期的目標については、学校関係者としても異論がない。

さて、教師自己評価集計結果についてみると、おおむね昨年度の評価と変わらないが、遅進者対策のポイントが上昇するなど、教師の意識改革が進んでいると認められる部分がある。

もっとも、教師の自己評価と生徒学校評価の数値が乖離する項目もあり、生徒目線からの教師の意識改革がなお求められている。また、本来0.0%でなければならないD評価が存在する項目もあり、その点には注意が必要である。

なお、保護者との連携及び意思疎通に関する項目は3.6ポイントと昨年度と同値だが、ここ1、2年、学校では、保護者アンケート、匿名ご意見箱の設置、参観週間、担任との懇談など保護者との連携の改善に努めてきたので、後援会としても残念な結果といえる。もとより改革に限界はないから、学校と後援会が協力し、これらの機会の周知や改善を通じて多様な保護者のニーズを吸い上げる努力が必要と思われる。

つぎに、生徒学校評価集計結果をみると、自習スペースほか校内設備の充実の点で評価が上がり、グラウンド整備など昨年からの学校の取組が生徒にとって好ましいものだったことが窺える。一方、授業の内容、進路相談、悩み事があった場合に先生に相談するかなどの点についてはまだ十分な評価が得られていないため、これらの点につき、さらに問題の原因を究明し、具体的な対策を立てる必要がある。

ここ数年、学校は、英語教育をはじめとする授業やカリキュラムの改善、教師の研修・教育、学校施設の改良、海外研修やキャリア教育などの企画を次々と実施し、改革に努めてきたが、今回の学校評価からは、さらに教師と生徒・保護者の関係を緊密にし、それぞれの多様なニーズに応じた教育活動を行うことが求められていると考える。

もとよりさまざまな支障があっても、ひとえに生徒のために、今後も、よりよい教育環境を整えられるよう努力されたい。

以上